

改訂日 2020年10月15日

製品安全データシート

製品及び会社情報

化学品等の名称	ピッカジーン デュアル シーパンジー発光キット
製品コード	PGD-S
会社名	東洋ビーネット株式会社
住所	東京都中央区京橋二丁目2番1号
電話番号	03-3272-3741
FAX番号	03-3272-8276
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用

製品セット内容

ピッカジーン発光基質
ピッカジーン発光試薬Ⅱ緩衝液
ルシフェラーゼスタンダード酵素
シーパンジー発光基質溶液
シーパンジー発光試薬緩衝液
5倍濃 細胞溶解剤

製品安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	ピッカジーン発光基質
会社名	東洋ビーネット株式会社
住所	東京都中央区京橋二丁目2番1号
電話番号	03-3272-3741
FAX番号	03-3272-8276
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類	物理化学的危険性	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性	区分外
		皮膚腐食性・皮膚刺激性	区分外
		眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分外
		特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分外

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

GHSラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	非該当
注意書き	非該当

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	ピッカジーン発光基質
濃度又は濃度範囲	—
分子式(分子量)	情報なし
CAS番号	情報なし
官報公示整理番号(化審法)	情報なし
官報公示整理番号(安衛法)	情報なし
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当、診断を受けること。
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の消火方法	情報なし
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	漏洩区域への関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、水で洗い流す。 漏れを止める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	適切な個人用保護具を着用する。
-----	-------	-----------------

安全取扱い注意事項	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 接触しないこと。飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 使用後は容器を密閉すること。
保管 安全な保管条件	直射日光を避け、密栓して適切な温度で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	未設定
許容濃度 日本産衛学会(2014年度版) ACGIH(2014年版)	未設定 未設定
設備対策	取扱い場所の近くに手洗い設備を設けること。
保護具 呼吸用保護具 手の保護具 眼の保護具	必要に応じて、適切な保護マスクを着用すること。 必要に応じて、適切な保護手袋を使用すること。 必要に応じて、適切な保護眼鏡を着用すること。 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて適切な保護衣を使用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状态	
形状	固体
色	無色
臭い	特徴的
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、気体)	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	自然発火しない
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	データなし
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報	
急性毒性 経口	区分外
経皮	区分外
吸入:ガス	分類対象外
吸入:蒸気	区分外
吸入:粉じん及びミスト	区分外
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
呼吸器感受性	区分外
皮膚感受性	区分外
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	分類できない。
生殖毒性	分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない。
吸引性呼吸器有害性	分類できない。

<p>12. 環境影響情報 生態毒性 水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(長期間) オゾン層への有害性</p>	<p>区分外 区分外 分類できない</p>
<p>13. 廃棄上の注意 残余廃棄物 汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p>
<p>14. 輸送上の注意 国際規制 国内規制 海上規制情報 航空規制情報 陸上規制情報 特別安全対策 緊急時応急措置指針番号</p>	<p>非該当 非危険物 非危険物 非危険物 直射日光を避けること。また、容器が漏れのないことを確認し、落下、転倒、損傷がないように積載して運搬すること。 該当しない</p>
<p>15. 適用法令 化審法 労働安全衛生法 毒物及び劇物取締法</p>	<p>非該当 非該当 非該当</p>
<p>16. その他の情報 参考文献</p>	<p>各データ毎に記載した。</p>

製品安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	ピッカジーン発光試薬Ⅱ緩衝液、5倍濃 細胞溶解剤
会社名	東洋ビーネット株式会社
住所	東京都中央区京橋二丁目2番1号
電話番号	03-3272-3741
FAX番号	03-3272-8276
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類	物理化学的危険性	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性	区分外
		皮膚腐食性・皮膚刺激性	区分外
		眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分外
		特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分外

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

GHSラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	非該当
注意書き	非該当

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	ピッカジーン発光試薬Ⅱ緩衝液、5倍濃 細胞溶解剤
濃度又は濃度範囲	—
分子式(分子量)	情報なし
CAS番号	情報なし
官報公示整理番号(化審法)	情報なし
官報公示整理番号(安衛法)	情報なし
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当、診断を受けること。
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の消火方法	情報なし
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	漏洩区域への関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、水で洗い流す。 漏れを止める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	適切な個人用保護具を着用する。
-----	-------	-----------------

安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
接触しないこと。飲み込まないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
使用後は容器を密閉すること。

保管 安全な保管条件

直射日光を避け、密栓して適切な温度で保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度
許容濃度 日本産衛学会(2014年度版)
ACGIH(2014年版)

未設定
未設定
未設定

設備対策

保護具 呼吸用保護具
手の保護具
眼の保護具

取扱い場所の近くに手洗い設備を設けること。
必要に応じて、適切な保護マスクを着用すること。
必要に応じて、適切な保護手袋を使用すること。
必要に応じて、適切な保護眼鏡を着用すること。
(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

必要に応じて適切な保護衣を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状
色
臭い
pH

液体

無色

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

自然発火しない

データなし

データなし

融点・凝固点

沸点、初留点及び沸騰範囲

引火点

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

燃焼性(固体、気体)

燃焼又は爆発範囲

蒸気圧

蒸気密度

比重(相対密度)

溶解度

n-オクタノール/水分分配係数

自然発火温度

分解温度

粘度(粘性率)

10. 安定性及び反応性

反応性

データなし

化学的安定性

データなし

危険有害反応可能性

データなし

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

データなし

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

急性毒性 経口

区分外

経皮

区分外

吸入:ガス

分類対象外

吸入:蒸気

区分外

吸入:粉じん及びミスト

区分外

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

区分外

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

区分外

呼吸器感受性

区分外

皮膚感受性

区分外

生殖細胞変異原性

区分外

発がん性

分類できない

生殖毒性

分類できない

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

分類できない

吸引性呼吸器有害性

分類できない

<p>12. 環境影響情報 生態毒性 水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(長期間) オゾン層への有害性</p>	<p>区分外 区分外 分類できない</p>
<p>13. 廃棄上の注意 残余廃棄物 汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p>
<p>14. 輸送上の注意 国際規制 国内規制 海上規制情報 航空規制情報 陸上規制情報 特別安全対策 緊急時応急措置指針番号</p>	<p>非該当 非危険物 非危険物 非危険物 直射日光を避けること。また、容器が漏れのないことを確認し、落下、転倒、損傷がないように積載して運搬すること。 該当しない</p>
<p>15. 適用法令 化審法 労働安全衛生法 毒物及び劇物取締法</p>	<p>非該当 非該当 非該当</p>
<p>16. その他の情報 参考文献</p>	<p>各データ毎に記載した。</p>

製品安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	ルシフェラーゼスタンダード酵素
会社名	東洋ビーネット株式会社
住所	東京都中央区京橋二丁目2番1号
電話番号	03-3272-3741
FAX番号	03-3272-8276
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類	物理化学的危険性	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性(経口・吸入)	分類できない
		皮膚腐食性・皮膚刺激性	分類できない
		眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分外
		特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性・長期間)	区分外

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

GHSラベル要素

絵表示	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	非該当
注意書き	非該当

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	ルシフェラーゼスタンダード酵素
濃度又は濃度範囲	—
分子式(分子量)	情報なし
CAS番号	情報なし
官報公示整理番号(化審法)	情報なし
官報公示整理番号(安衛法)	情報なし
分類に寄与する不純物及び安定	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当、診断を受けること。
応急措置をする者の保護	情報なし
医師に対する特別な注意事項	情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の消火方法	情報なし
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	漏洩区域への関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、水で洗い流す。 漏れを止める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	適切な個人用保護具を着用する。
-----	-------	-----------------

	安全取扱い注意事項	<p>使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 接触しないこと。飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 使用後は容器を密閉すること。</p>
	保管 安全な保管条件	直射日光を避け、密栓して適切な温度で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置		
	管理濃度	未設定
	許容濃度 日本産衛学会(2014年度版) ACGIH(2014年版)	未設定
	設備対策	未設定
	設備対策	取扱い場所の近くに手洗い設備を設けること。
	保護具	
	呼吸用保護具	必要に応じて、適切な保護マスクを着用すること。
	手の保護具	必要に応じて、適切な保護手袋を使用すること。
	眼の保護具	必要に応じて、適切な保護眼鏡を着用すること。 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
	皮膚及び身体の保護具	必要に応じて適切な保護衣を使用すること。
9. 物理的及び化学的性質		
	物理的状态	
	形状	液体
	色	無色
	臭い	データなし
	pH	データなし
	融点・凝固点	データなし
	沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
	引火点	データなし
	蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
	燃焼性(固体、気体)	データなし
	燃焼又は爆発範囲	データなし
	蒸気圧	データなし
	蒸気密度	データなし
	比重(相対密度)	データなし
	溶解度	データなし
	n-オクタノール/水分配係数	データなし
	自然発火温度	データなし
	分解温度	データなし
	粘度(粘性率)	データなし
10. 安定性及び反応性		
	反応性	データなし
	化学的安定性	データなし
	危険有害反応可能性	データなし
	避けるべき条件	直射日光、熱
	混触危険物質	データなし
	危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報		
	急性毒性	
	経口	分類できない
	経皮	分類できない
	吸入:ガス	分類対象外
	吸入:蒸気	分類できない
	吸入:粉じん及びミスト	分類できない
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない

<p>12. 環境影響情報 生態毒性 水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(長期間) オゾン層への有害性</p>	<p>区分外 区分外 分類できない</p>
<p>13. 廃棄上の注意 残余廃棄物 汚染容器及び包装</p>	<p>廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。</p>
<p>14. 輸送上の注意 国際規制 国内規制 海上規制情報 航空規制情報 陸上規制情報 特別安全対策 緊急時応急措置指針番号</p>	<p>非該当 非危険物 非危険物 非危険物 直射日光を避けること。また、容器が漏れのないことを確認し、落下、転倒、損傷がないように積載して運搬すること。 該当しない</p>
<p>15. 適用法令 化審法 PRTR法 労働安全衛生法:</p>	<p>非該当 非該当 非該当</p>
<p>16. その他の情報 参考文献</p>	<p>各データ毎に記載した。</p>

製品安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称

会社名

住所

電話番号

FAX番号

推奨用途及び使用上の制限

シーパンジー発光基質溶液
東洋ビーネット株式会社
東京都中央区京橋二丁目2番1号
03-3272-3741
03-3272-8276
試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類 物理化学的危険性
健康に対する有害性

引火性液体 区分2
急性毒性 区分外
皮膚腐食性・皮膚刺激性 区分外
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 区分2B
発がん性 区分1A
生殖毒性 区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)
水生環境有害性(急性) 区分外

環境に対する有害性

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

危険
引火性の高い液体及び蒸気
眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ
眠気又はめまいのおそれ
発がんのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障害
長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を密閉しておくこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性情報

情報なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

化学名又は一般名

濃度又は濃度範囲

分子式(分子量)

CAS番号

混合物
シーパンジー発光基質溶液
エタノール 75-100%
エタノール C₂H₆O (46.069)
エタノール 64-17-5

官報公示整理番号(化審法) エタノール (2)-202
官報公示整理番号(安衛法) 既存
分類に寄与する不純物及び安定 情報なし
化添加物

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 眼に入った場合

皮膚を速やかに洗浄すること。
水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に
外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
医師の手当、診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候 症状

吸入: 咳、頭痛、疲労感、し眠。
皮膚: 皮膚の乾燥。
眼: 発赤、痛み、灼熱感。
経口摂取: 灼熱感、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失。
最も重要な兆候及び症状:

応急措置をする者の保護 医師に対する特別な注意事項

情報なし
情報なし

5. 火災時の措置

消火剤 使ってはならない消火剤 特有の危険有害性

粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、二酸化炭素、砂
棒状放水
加熱により容器が爆発するおそれがある。
極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。
消火後再び発火するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。
容器が熱に晒されているときは、移さない。
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措 置

全ての着火源を取り除く。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材

環境中に放出してはならない。
回収・中和: 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、
化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材: 危険でなければ漏れを止める。
二次災害防止策: すべての着火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花
や火炎の禁止)。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用
する。

安全取扱い注意事項

局所排気・全体換気: 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、
全体換気を行う。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
取扱い後はよく手を洗うこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
皮膚と接触しないこと。
眼に入れないこと。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

保管 安全な保管条件

技術的対策: 消防法の規制に従う。

保管条件: 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。一禁

情報なし

安全な容器包装材料

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度

日本産衛学会(2014年度版)
ACGIH(2014年版)

未設定

TLV-STEL 1000ppm

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

ばく露を防止するため、装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸用保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状

液体

色

無色

臭い

刺激的

pH

データなし

融点・凝固点

エタノール -114.14 °C : HSDB(2013)

沸点、初留点及び沸騰範囲

エタノール 78.5°C : Merck (14th, 2006)

引火点

21°C以下

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

データなし

燃焼又は爆発範囲

エタノール 3.3~19% : ICSC(2000)

蒸気圧

エタノール 59.3mmHg(25°C) : HSDB (2013)

蒸気密度

エタノール 1.59 (Air=1) : HSDB (2013)

比重(相対密度)

エタノール 0.789 (20°C/4°C) : Merck (14th, 2006)

溶解度

エタノール 水と混和 : ICSC(2000)

殆どの有機溶剤と混和 : HSDB(2013)

n-オクタノール/水分配係数

エタノール log Kow = -0.31 : HSDB(2013)

自然発火温度

自然発火しない

※エタノール 363°C : ICSC(2000)

分解温度

情報なし

粘度(粘性率)

エタノール 1.074 mPa.s at 20 °C : HSDB(2013)

10. 安定性及び反応性

反応性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

化学的安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

エタノールとして...

危険有害反応可能性

次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

エタノールとして...

次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤

危険有害な分解生成物

一酸化炭素、二酸化炭素、酸化硫黄

11. 有害性情報

急性毒性 経口

区分外

経皮

区分外

吸入: ガス

分類対象外

吸入: 蒸気

区分外

吸入: 粉じん及びミスト

分類できない

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

区分外

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

エタノールは、ウサギを用いた2つのDraize試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005))。このうち、1つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第1日の平均スコアが角膜混濁で1以上、結膜発赤で2以上であり、かつほとんどの所見が7日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998))との報告がある。エタノールが濃度限界(10%)以上のため、区分2Bとした。

呼吸器感受性

分類できない

皮膚感受性

分類できない

生殖細胞変異原性

分類できない

発がん性

エタノールを含むため、区分1Aとした

生殖毒性

エタノールを含むため、区分1Aとした

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

エタノールは、ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている (PATY (6th, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒(筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒(視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状(嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など)を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている (PATY (6th, 2012))。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている (SIDS (2005))。エタノールを濃度限界(20%)以上含むことから、区分3(気道刺激性、麻酔作用)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

エタノールは、ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する (DFGOT vol.12 (1999))との報告がある(区分1(肝臓))。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある (HSDB (Access on June 2013)) (区分2(中枢神経系))。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている (SIDS (2005)、PATY (6th, 2012))。エタノールを10%以上含むことから、区分1(肝臓)、区分2(中枢神経系)とした。

吸引性呼吸器有害性

分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性 水生環境有害性(急性)
水生環境有害性(長期間)
オゾン層への有害性

区分外
区分外
分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国際規制

1170
ETHANOL SOLUTION (ETHYL ALCOHOL SOLUTION)

国連品名

国連危険有害性クラス

3

副次危険

容器等級

II

海洋汚染物質

該当しない

MARPOL73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質

該当する

国内規制

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

航空法の規定に従う。

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

特別安全対策

移送時にイエローカードの保持が必要。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

127

15. 適用法令
化審法
労働安全衛生法

毒物及び劇物取締法
消防法
大気汚染防止法
海洋汚染防止法
航空法
船舶安全法
港則法
道路法

16. その他の情報
参考文献

非該当
危険物・引火性の物
名称等を表示すべき危険有害物(法第57条、施行令第18条別表第9)
名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)
H200
非該当
第4類引火性液体、アルコール類
揮発性有機化合物
有害液体物質
引火性液体
引火性液体類
その他の危険物・引火性液体類
車両の通行の制限

各データ毎に記載した。

製品安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

化学品等の名称	シーパンジー発光試薬緩衝液
会社名	東洋ビーネット株式会社
住所	東京都中央区京橋二丁目2番1号
電話番号	03-3272-3741
FAX番号	03-3272-8276
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用

2. 危険有害性の要約

GHS分類	物理化学的危険性	分類できない	
	健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
		皮膚感作性	区分1
		眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性	区分外
		発がん性	区分2
		生殖毒性	区分1B
		特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
		特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
	環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分外

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の11項に、「分類対象外」、「区分外」または「分類できない」の記述がある。

GHSラベル要素
絵表示

注意喚起語	危険
危険有害性情報	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
注意書き	
安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
応急措置	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当てを受けること。
保管	なし
廃棄	なし
他の危険有害性情報	なし

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	シーパンジー発光試薬緩衝液
濃度又は濃度範囲	チオ尿素 1%未満 メタノール 1%未満
分子式(分子量)	チオ尿素 CH4N2S メタノール CH4O
CAS番号	チオ尿素 62-56-6 メタノール 67-56-1
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	チオ尿素 (2)-1723 メタノール (2)-201
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし

4. 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚を速やかに洗浄すること。

眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当、診断を受けること。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候 症状	メタノール： 眼、皮膚、気道を刺激する。意識を喪失することがある。失明することがあり、場合によっては死に至る。持続性あるいは反復性の頭痛、視力障害を生じることがある。
応急措置をする者の保護 医師に対する特別な注意事項	チオ尿素：適切な保護具を着用する メタノール：暴露の程度によっては、定期健診が必要である
5. 火災時の措置	
消火剤	粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、二酸化炭素、砂
使ってはならない消火剤	データなし
特有の危険有害性	データなし
特有の消火方法	データなし
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	漏洩区域への関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用する。 密閉された場所は換気する。
環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、水で洗い流す。 漏れを止める。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い 技術的対策 安全取扱い注意事項	適切な個人用保護具を着用する。 使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 接触しないこと。飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 使用後は容器を密閉すること。
保管 安全な保管条件	直射日光を避け、密栓して適切な温度で保管すること。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	メタノール 200ppm
許容濃度 日本産衛学会(2014年度版)	メタノール 200ppm 260mg/m3(皮膚吸収)(2009年版)
ACGIH(2014年版)	メタノール TWA 200ppm STEL250ppmSkin(2009年版)
設備対策	取扱い場所の近くに手洗い設備を設けること。
保護具 呼吸用保護具	必要に応じて、適切な保護マスクを着用すること。
手の保護具	必要に応じて、適切な保護手袋を使用すること。
目の保護具	必要に応じて、適切な保護眼鏡を着用すること。 (普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて適切な保護衣を使用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状态	
形状	液体
色	無色
臭い	特徴的
pH	5(20°C)
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	100°C
引火点	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル=1)	データなし
燃焼性(固体、気体)	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし

蒸気密度	データなし
比重(相対密度)	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	自然発火しない
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
10. 安定性及び反応性	
反応性	データなし
化学的安定性	データなし
危険有害反応可能性	データなし
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	データなし
危険有害な分解生成物	データなし
11. 有害性情報	
急性毒性 経口	区分外
経皮	分類できない
吸入:ガス	分類対象外
吸入:蒸気	分類できない
吸入:粉じん及びミスト	分類できない
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分外
呼吸器感作性	区分外
皮膚感作性	チオ尿素を0.1%以上含むことから、区分1とした。(危険有害性情報:H317)
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	チオ尿素を0.1%以上含むことから、区分2とした。(危険有害性情報:H351)
生殖毒性	メタノールを0.3%以上含むことから、区分1Bとした。(危険有害性情報:H360)
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない
12. 環境影響情報	
生態毒性 水生環境有害性(急性)	区分外
水生環境有害性(長期間)	区分外
オゾン層への有害性	分類できない
13. 廃棄上の注意	
残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
14. 輸送上の注意	
国際規制	非該当
国内規制 海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
陸上規制情報	非危険物
特別安全対策	直射日光を避けること。また、容器が漏れのないことを確認し、落下、転倒、損傷がないように積載して運搬すること。
緊急時応急措置指針番号	該当しない
15. 適用法令	
化審法	チオ尿素 第2種監視化学物質(法第2条第5項) メタノール
PRTR法	チオ尿素 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1)

労働安全衛生法:

チオ尿素

名称等を表示すべき危険有害(法第57条施行令第18条別表第9)
名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3)

メタノール

第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)

名称等を表示すべき危険有害物(法第57条、施行令第18条別表第9)

名称等を通知すべき危険有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第57条の3)

毒物及び劇物取締法

メタノール 劇物(法第2条別表第2)(法令番号:83)

大気汚染防止法

メタノール 特定物質(法第17条第1項、政令第10条)

海洋汚染防止法

メタノール 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)

消防法

メタノール 第4類引火性液体、アルコール類(法第2条第7項危険物別表)

船舶安全法

チオ尿素 毒物類・毒物(危規則第2、3条危険物告示別表第1)

メタノール 引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

チオ尿素 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

メタノール 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

参考文献

各データ毎に記載した。

免責事項

このSDSはJIS Z 7253:2012に準拠しております。記載内容は通常の取扱いを対象としたものであり、他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。改定日における最新の情報に基づいて作成しておりますが、全ての情報を網羅しているものではありませんので、新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。